

会場からの質問、意見・感想

第2回シンポジウムで寄せられた質問を紹介します。

凡例

会場からの質問

登壇者の回答

在住の人たちに向けたプランなのでしょうか？“わざわざ来たい”街にもするためのプランなのでしょうか



西村さん

地元住民が豊かに楽しく暮らしていることこそが重要であり、それをみた来訪者が関心を持ち、住みたい人、商売したい人が増えていく循環を公民連携でつくっていくことが理想です。（西村さん）

どんな人をメインターゲットにしたまちなかなのでしょうか？周遊してほしい人が若い人なのか子育て世帯なのか高齢者なのかによって、だいぶ違うものになると思います。その人たちは会議の中心メンバーに入ってますか？



稀温さん



西村さん

子育て世代や高齢者など様々な層のニーズに応えつつ、商業エリアや緑豊かな環境を整備することが多様性を生み出し、まち全体の活気が高まります。（西村さん）

駅前周辺の住民は高齢者がマジョリティであり、住民が衰退するという道を選んだのにも関わらず、部外者が駅周辺の都市開発について考えるのはおせっかいなのではと考えますがいかがでしょうか？



出村先生

同じ世代の人たちが同時に年を取っていくと、いつか立ち行かなくなってしまいます。もう一度、各層が交じり合って面白くなっていくまちなかを目指しませんか？（出村先生）

構想図を見ると、リニア後の名古屋駅前の再開発構想とそっくりですね。同じ開発モデルに倣わないといけない？豊かさとは歩く人を優先すること、という価値観が絶対に不偏的？



西村さん



出村先生

ハード面は同じ開発モデルを倣わずとも似てくることはあります、一宮には特有のコンテンツ、カルチャーが様々あるため、駅前の使いこなし方によって、その風景は全く違うものになっていきます。（西村さん）

車で通り過ぎるだけでは、その地域に豊かさを生みません。車で駅に来た人を含めて、安全に過ごし、楽しみ、商売ができるようにするために、歩く人を優先とすることは普遍的な価値観だと思います。（出村先生）

会場からの質問、意見・感想

第2回シンポジウムで寄せられた質問を紹介します。

凡例

会場からの質問

登壇者の回答

商目線で見ればふらっと一宮駅に降り立った人が銀座や本町通り商店街で“一万元を色々楽しく使い切れる街”になればと思ったりしますがどう思われますか？

前回、駅前に目的がない問題を投稿した者です。再度恐縮ですが、空間作りの前に『人が行き交うための目的(目的地)』から、設計すべきではないかと思います。仕事には職場と言う目的地があります。コミュニティには目的があります。観光地には目的地があります。目的地を目指す、その結果が『まち中の賑わい』に通ずるものかと。



その通りだと思います。杜の宮市やまちの宮など、一宮の楽しいコンテストが揃ったイベントを体験してもらいながら、まずは本町通りが目的地として元気になるよう力を入れていく予定です。（星野さん）

駅と本町通りをつなぐのが銀座通り。駅から本町通りを遠いと感じさせないように、途中の銀座通りにも目的地があり、楽しい空間にしていくためのハードとソフトの両方の取り組みが必要です。（西村さん）

周辺エリアへの経済的な波及効果は、先進都市で実際に有効性が認められているのでしょうか？来街者、あるいは在住者がきちんとお金を落とすことが望ましいと思いますが、そのあたりの指標の増加は見込めるのでしょうか？



先進都市ではウォーカブルなまちづくりの推進により来街者の増加や周辺商業地の地価、商業の新規出店の増加につながっています。それには、空間を使いこなす人を見つけ、支えていくことも必要です。（出村先生）

海外の例を出されて人と車とが一体になった街のデザインと言うようなことを仰っていたかと思いますが、法律的なところで問題等はないのでしょうか？また、安全性についてはどうでしょうか？



オランダ語で「ボンエルフ」と呼ぶ歩車共存道路の考え方は、日本の法律でも問題ありません。速度を出す通過交通をなくし、沿道に用事のある車だけがゆっくりと走行するため、安全性も高まります。（出村先生）

銀座通りの全幅員を対象とするのは、街の規模と比較して、広すぎてかえって南北を、分断しないか懸念します。



銀座通りの目の前の自動車が少なくなり、沿道と公共空間の一体感が高まることで、南北の境目はなくなっています。（出村先生）

会場からの質問、意見・感想

第2回シンポジウムで寄せられた質問を紹介します。

凡例

会場からの質問

登壇者の回答

まちなかに集い、憩い、滞留して回遊する人がどのようにアクセスして、回遊するのか。徒歩だけなのか。そういった移動の観点での話が抜けている印象ですが、どのように整理されていますか。

国道22号→岐阜羽島等へ移動する際、一宮駅周辺は必ず通る道ですが、いつも混んでおり、車の流動がうまくいっていないように感じます。一宮市は車がないと生活が出来ない街と感じているため、車との共生、市民の方が車でやって来て、車を停めて、ウォーカブルをするというスキームでないと難しいと思いますが、どのようにお考えですか？

岐阜に抜ける物流の要衝で、将来的にも物流が増えていくと認識しています。現況の交通量のシミュレーションでは道路のキャパシティが足りなくなると思いますがどのように将来予想してるのでしょうか？



出村先生

一宮駅まで電車やバスで来る人だけでなく、自動車で来る人も駅ロータリーや地下駐車場にアクセスしやすくなり、その方が歩いてまちなかに出てくることを意図しています。駅前から通過交通をなくすことで、駅ロータリーへのアクセスはしやすくなります。また、周辺への迂回交通による混雑悪化の影響はシミュレーション上はほとんどないことを確認しました。実証実験で検証するとともに、必要に応じて周りの幹線道路の対策が必要になってくると考えています。（出村先生）

千歳通りを分断というお話ですが、公共交通(主に路線バス)の流れが変わりますが、そちらに関してはどのようにお考えでしょうか？



出村先生

駅前に広場があり、子供が遊んでいる駅を見たことがあります。緑豊かで心が和みました。同時に、バス乗車場や送迎ロータリーがその隣に整備して、駅へのアクセスをどう確保するかも併せて考えたいです。

千歳通りを通過するバス路線や送迎ロータリーを使う自動車やタクシーの流れも調査しながら、プランを検討しています。今後はJRさんや名鉄さんも含め、利用者にとって使いやすい駅前広場を議論していきたいと思っています。（出村先生）

駅前を抜ける車が多い訳ですが、混むと分かっていても抜ける車がいるのは何か理由があるかと思います。何が理由だと思われますか？



星野さん

地元民である私も、地元民だから知っている最短経路だと思って利用することがあります。道路があるから使ってしまっていますが、将来世代のことを考えると、駅前も本町通りのように通り抜け交通を規制し、安全に過ごしやすい空間になるといいと思います。（星野さん）

会場からの質問、意見・感想

第2回シンポジウムで寄せられた質問を紹介します。

凡例

会場からの質問

登壇者の回答

緑がきれいに増えるのなら嬉しいが、現状は歩道の樹木の枝は打ち払われ、花壇も一部しか手入れされていない。管理できない実態は改良できるのか。



ペットを散歩させてコーヒーを片手に散歩する、爽やかな気持ちいい環境で人が賑わう理想的です。そしてその先にはペットの糞尿や食べ物のゴミこれを掃除する仕組みも考えなくてはいけないと思う。



歩道にテラス席を設けた際、目の前に立地する店舗の方による美化の活動につながりました。店舗前も自分たちの店舗として認識するような滲み出しの効果がこういった行動につながると思います。（名畠さん）

個々の状況に応じて異なるアプローチを考える必要があると思いますが、誰かに問題を押し付けるのではなく、そもそも問題が起こらないような仕組みづくりが必要だと思います。（出村先生）

まずは、その相談ができるだけ多くの人々と共有することが重要です。私たちや皆さんがあついていないことがたくさんあるため、このような問題を解決するための仕組みを考える場として、このシンポジウムを活用できるといいなと思います。（西村さん）

オープンカフェは見た目にはとても良いですが、カラス対策がテーマですね。また、自転車やスケボー、ダンスの練習なども自由にやらせればいいとは思いますが、安全対策のみならず騒音や夜間対応など、規制のオンパレードになってしまふと、活用範囲が抑制されてしまいますね。

まち全体につながる議論だと思います。シンポジウムで個々の問題を集約し、将来のまちのビジョンを含めて話し合っていける場にしていきたいです。（星野さん）

回数を重ねていく事に議論も活発となり、意見交換の時間が足りない事が多くなって来ています。今回“滲み出す”と表現されていた街を使いこなす実験？トレーニング？も兼ねて銀座通りや本町商店街の軒先1mで、開かれた懇親会などを行う事はどうでしょうか？飲食物やゴミ、トイレなどの問題がよりリアルに感じられるような気もします。

是非やりましょう！みんなで話し合いながらチャレンジングな実験をして、それを進化させながら、新しい未来と一緒に探していくプロセスが一宮らしい日常になると思います。（西村さん）

会場からの質問、意見・感想

第2回シンポジウムで寄せられた質問を紹介します。

凡例

会場からの質問

子育て世帯や高齢者が平日の昼間の主役。これらの人人が実際の生活の中でどう活用してくれるか？という視点からも考えるといいのでは？？

子どもたちが想いを表現することを受け止める人たちと場がほしい。

一宮市での地産地消を拡大していただきたいです。

出村先生の具体的な地図で未来をイメージしやすい。広く歩く場、ここに毎週末ウィークエンドマーケットを開くと地産地消の衣食消費にもなりそう。地元の人は出店料半額等コントロールもできないかな？

構想やまちづくりは楽しいのだけれど、それを維持していく負担はどうするのか？ 今の構想図は豊かに見えるけど、行政が維持するしかないビジョン。市民はその税負担を受け入れられるのか。例えば事業者が集う中心街にすれば、事業者が維持するし、違った賑わいの創出になる

公共の花壇をその地域のお花好きな方に無償で貸し出して、ガーデニングを楽しんで生き甲斐にしてもらえば、お金使わずきれいに保てないかな？市からは素晴らしい花壇を表彰したりでやる気も出たり、、

駅から神社までの人の流れをつくる方針は大賛成。車道を公園に…という案も理想通りにできるならいいけど、反対意見も強いようですね。では、かなり広い歩道を整備して、そこに露天や屋台、キッチンカー等を積極的に並べてはどうでしょう？駅から見たときに本町に向かって歩いてみようと思わせるために。

お店やさんだけでは、本町方向には流れでかないのでは？図書館や子育て支援センター、子どもの遊べる場所など公共施設なども点在させては？？

駅利用の方は無料という安心安全な駐車場駐輪場を1km程遠くに作れば、歩いてくれないかなあ？

駅周辺にほしい物の一つ。よくあるレンタサイクルのような「レンタル車椅子」ステーションがあるとお年寄りにも優しいまちづくりに近づきそうに思います

会場からの質問、意見・感想

第2回シンポジウムで寄せられた質問を紹介します。

凡例

その他ご感想

今後の進め方に関するご意見・ご質問

道路行政的には大胆だけど実現するといいなあという空間デザインの基本的な方針だと思いました。大事なお話だと思ったので出村先生たっぷりお時間かけてくださってありがとうございました。

生まれも育ちも職場も一宮市です。変えましょう、一宮市を。ほんとはいい街ですが、活かしきれてないと思っています。なんだかんだ抵抗勢力があると思います。ですが、やりましょう、必ず。今すぐやらないと10年後ヤバいです。のままでは一宮市はオワコン化まっしぐらだと若者はみんな思っています。今なら間に合います。

今住んでいる人、それぞれの世代の利益も大事ですけど、世代を越えて、今生きている人たちすべてが、これから生まれてくる人たちに良い街を渡すということが共通の目的になりえると思いました。それが共通の目標になって、街が進んでいくとしたら、その姿は、それだけで街の魅力だなと思いました。

本音が届く街、最初は愚痴だとしてもやがてそれが改善の動きとなり、多くの人の幸せに繋がるような流れ

寄り道したい店、犯罪を少なくしていくために、道路などのインフラから整備していくべきだと思います。

喜多さんの会社、行ってみたくなる。柳ヶ瀬にある出村先生の研究室も行ってみたい！

道路を広い歩行・コミュニティ空間の創造は大いに賛成だが、どうしてもハード先行になりがちで、ソフトつまり、実際の生活者が何を求め、どう使いたいのか、どう運営していくのかは、もう少し把握したい。

大胆なことを行わないと、注目されないので、積極的に通りを改造してよいと感じます。ただデザイン優先でなく、駅ビルの機能の再編、銀座通りなどへの展開という仕掛けも早期に必要な感じもします。

毎回参加してて思っているのですが、明確な定量的な目標が全く示されずに、「にぎわい」というふわっとした語をもとに議論をする事に疑問を感じています。今回の会議も事例紹介と自己紹介が大半を占めており、これだけ沢山の人が集まっているながら全くもって会議の体をなしていないです。これで建設的にプロジェクトが進んでいくのでしょうか？

星野さんのTシャツ、自主制作する熱意かっこいいし、書いてあることもかっこよかったのに…たしか第一回シンポジウムで「これから毎日着ます」って言ってたのに…残念です

日本で2番目の車窃盗市の施錠問題を観光地でどう解決するかを考えてほしい。

どれ位の期間をかけて建設を進める予定でしょうか？

回答：現時点では未定です。（一宮市）